

【演習】「質の高い報連相を行う意義」について考える

- もし、関係者に対するあなたの報連相が不十分だと、どんな困ったことが起こると思いますか？ 想定される悪い事態をできる限り多くあげてください。

- 関係者に対するあなたの報連相の質がより高くなると、どんな良いことが起こると思いますか？ 想定される良い事態をできる限り多くあげてください。

【演習】「情報の共有化」について考える

●「情報の共有化」の成功事例を教えてください。

これまでのあなたの仕事経験の中で、「関係者と情報の共有化を深めながら仕事を進めたところ、仕事がうまくいった」という経験を一つメモしてください。また、その成功要因(なぜうまくいったのか)もメモしてください。

うまくいったとは、例えば、「皆が自発的に動いてくれるようになり、仕事を予定よりも早く終わらせることができた」「相手から適切な助言をもらうことができ、アウトプットの質が高まった」など

自分の考え	
グループワークのメモ	

「情報の共有化」の3つの深度

情報の共有化には「3段階の深度」があります。

報告や連絡は、関係者が情報を共有することです。相談も情報の共有化がまず必要です。その場合、伝わらなければならないのは、「言葉や数字」だけではありません。その「意味」を伝えることが大切です。さらには「思い」を共有したいものです。

私たちが普段使っている「情報の共有化」は、文字・数字(データ)の共有化のような感じではないでしょうか。しかし、目を凝らして、企業の内外を観察しますと「情報の共有化」には3段階の「深度」があるのがわかります。

情報の共有化の深度

深度 1	事実情報の共有化	知っている(見た・聞いた・読んだ)	聞く
深度 2	意味(目的)の共有化	わかっている(意味が通じる)	訊く
深度 3	考え方の波長の共有化	心が揃っている(気持ちに通じる) (共感・感動・やる気)	聴く

©糸藤正士

- 上から下、下から上、横・斜、全ての関係で、情報の共有化を深めましょう
- 発信者と受信者の双方で、情報の共有化を深めましょう
- 職場全体で、情報の共有化を深めましょう

報連相の改善・レベルアップを支援し合う相互インタビュー

1. ご自身の日頃の報連相に点数をつけてみていただけますか。
理想的な状態を100、全くダメを0としたら、
今現在の自分の報連相は何点くらいだと思いますか？
2. そのような点数をつけられた理由を教えてくださいませんか？
こんなことができている、反面、こんなことができていない等
3. もし、今できていない報連相が、よりできるようになったとしたら、
どんな良い事(プラス)がありそうですか？
4. そのために、今日から、まず取り組みたいことは、どんなことですか？

相手と誠実に向き合い、必要な場合には、寄り添う姿勢がとれますか？

報連相をする際には、「考え方」や「やり方」だけでなく、「あり方(=姿勢)」を大切にしたいものです。

「相手と報連相をしている自分の“心身の方向”はどうなっているか？」を自問することで、自分の「あり方」を客観視することができます。

相手と報連相をする際の“心身の方向”には、次の「3つの方向」があります。相手に対する「心、あるいは心身」の方向です。

【3つの方向(自己の振り返りのポイント)】

- ① 相手と誠実に向き合っているか
- ② 必要な場合には、相手に誠実に寄り添っているか
- ③ 相手と誠実に向き合っていない(このようなことはないか)

「相手と誠実に向き合う」ことが、真・報連相の基本姿勢です。心が大切です。身体だけ向き合っても、よそ事を考えていたり、うわの空状態では、質の高い報連相はできません。誠実に向き合うことが大切です。この基本姿勢の上に、「必要な場合には、寄り添う姿勢」が、自然体でとれることが望まれます。

(詳細は、「真・報連相のハンドブック」のP.59～P.62をお読みください)